



2023年度 いちごぐみ



敦賀教会幼稚園

園長 有岡史季

クラスだより

5月31日発行

執筆者 吉野とみか

新緑が青空に映え、どこにいてもまぶしい光を浴びることが出来ます。いちご組の子ども達も園生活に少しずつ慣れ、緊張していた子どもたちも笑顔が増え、安心して過ごせるようになってきました。また、友達の名前をロケットでめたり、挨拶したり、友達との関わりも見られるようになり、とても微笑ましく思います。所持品の片付けが終わると、お部屋を中心に晴れた日はテラスや園庭に出て、それぞれ好きな遊びを楽しんでいます。特に園庭では、思い切り遊ぶ様子がみられ、のびのびとした時には泥だらけになり、じっくりと遊んでいます。幼稚園がより楽しく安心できる場となるように、個々に寄り添い過ごしていきたいと思っております。

園での様子

★テラス... 各クラスの保育室に隣接するテラスは良き異年齢交流の場となっています。お兄さんお姉さんと一緒にダンゴ虫を探したり、部屋に入って折り紙を見せてもらったり、一緒に遊ばせてもらったり... 沢山の刺激を受けています。また、お散歩の際に下西農園さんで買ったトマトとオクラの苗もテラスで育てています。「まだでまん(笑)らういぬ」と楽しんで水をあげ、成長を待っています。みんなで大切に見守っています。

★園庭... 滑り台も砂場も大好きな子ども達。砂場では山を作ったりお料理を作る真似をしたり、時には、泥だらけになりつつ楽しんでます。

★折り紙... 魚が泳いでいこうように元気にカキ育、てほしいと原いむ込め、揚げるこいのぼりを制作しました。真魚はスタンプで斜魚はシールで魚鱗の模様をつけました。ボードに飾ると自分の作品を見つ、嬉しそうに話していました。

お願い

★子ども達は、石少遊びや粘土など手を使って遊ぶことが大好きです。爪が長いと、爪の間に汚れが入り不衛生になります。糸目な爪切りをお願いいたします。

★身の回りの事を自分でやってみようとする姿が見られてきています。子ども達の「してみよう!」という意欲に繋がるように扱いやすい服装・物をお持たせください。一人でできた喜びにも繋がります。

★毎日汚れても良い服装で登園してください。着替えは翌日に絵本袋に補充分をお持たせください。

★登降園時には、帽子・水筒・リュック・絵本袋は自分で持つ習慣をつけましょう。水筒は直にかけ、どちらかの手を通してください。また、ハンカチは子ども達が扱いやすい大きさのものをポケットに入れてください。

★お家の方から高熱水、幼稚園で過ごし一杯遊んで帰ってきた子ども達と、泥山スキンシップを是非お願いいたします。それが子ども達の元気の源になります。

遊びの中の学びの芽

幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿「健康な心と体」「自主心」「協同性」「豊かな感性と表現」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い(幼稚園教育要領)」があります。この10の姿は到達目標として掲げられているのではなく、教師が保育を計画したり指導したりする中で、参照点・枠組みとして意識するものです。これからクラスだよりで連載していく遊びの中の学びの芽のコーナーでも10の姿の育ちへのつながりを感じて頂けたらと思います。

砂場遊びが大好きな子ども達です。いろいろな容器に砂を詰め、ひっくり返してフリンやケーキを作る型抜き遊びや、たらいに張った水をジョウやスプーンなどの道具を使って、他の物に押し替えたり、川を作って水を流し入れたりする遊びを楽しんでいます。今回は、その中から型抜き遊びに目を向け、学びの場面をお伝えしたいと思います!

R君は大きなバケツにスプーンを使って砂を詰め、型抜きを楽しんでいます。大きなバケツ一杯に砂を詰めるのは、2歳児にはなかなか根気のいる作業ですが、何度も何度も砂をくわっては入れ、一杯になるまで頑張ります。おや、一杯になると達成感の意味、心が満たされる様子があります。さて、その続きのバケツをひっくり返す作業ですが、砂で一杯になったバケツはとても重くて、自分ではできそうにありません。そこでR君は考え、教師に手伝ってもらおうとバケツを運ぼうとします。バケツは重くてなかなか思い通りに動いてくれませんが、そこで感じる重量感が面白く、何やらにやかに運んでいます。砂や水に興味をもち、まず「感じる」「感覚を味わう」ことが面白い2歳児ならではの姿です。さて、型抜き遊びはどの程度、どんな石で砂を詰めれば良いか、カキ減やコツが必要で、少なすぎても、カキ足りなくても上手いきません。手首の返しや勢いも必要です。何度も何度も失敗し、試行錯誤を繰り返します。ずらと同じ遊びをしているように見えて、実はその中で目的と手段のつながりをインジリ、試行錯誤しながら考えているのです。

身近なものに関わる中で様々なことを身体と心で感じ、学び取っています。豊かな感性が育ち、好奇心や探求心に繋がって、それを言葉で表現しようとする力に向かっています。遊びの中の学びの芽をしっかりと見取りながら、子どもたちひとりひとりの育ちを支えていきたいと思っております。